

「就職内定率・就職率」

本年3月、厚生労働省と文部科学省は、平成28年3月に大学を卒業した学生の2月1日現在における就職内定率が87.8%と、前年同月比1.1ポイント増にて平成20年3月卒業生以来8年ぶりの高水準であったと発表しました。

1. 「就職内定率」とは

就職内定率とは、就職希望者に占める就職内定者の割合をいい、以下の式で計算します。

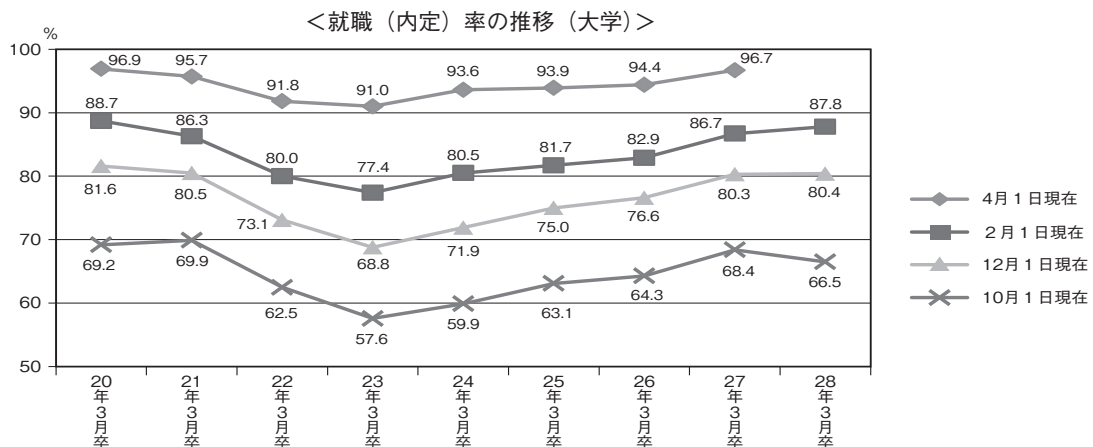
$$\text{就職内定率} = \text{就職内定者} \div \text{就職希望者} \times 100$$

2. 「就職内定率」と「就職率」

大学等（大学、短期大学、高等専門学校、専修学校）卒業予定者の就職内定状況調査は、文部科学省及び厚生労働省が共同で年4回（卒業前年の10月1日現在、12月1日現在、卒業年の2月1日現在及び4月1日現在）実施し、その結果を発表しています。

一方、「就職率」という言葉があり、かつて国の調査において、その内容により就職希望者に占める就職者の割合を指す場合や、卒業者に占める就職者の割合を指す場合があるなど定義が不統一でした。そのため、文部科学省は平成25年12月に「『就職率』は就職希望者に占める就職者の割合を指し、その中でも10月1日現在、12月1日現在、2月1日現在の調査結果を『就職内定率』と称し、4月1日現在の調査結果を『就職率』と称する」旨の通知を行いました。卒業者に占める就職者の割合は、そのまま「卒業者に占める就職者の割合」と表現、就職率と異なることを明確化しています。

なお、一部の大学などが発表する就職内定率において、1人の学生が複数の企業から受けた「内定」の数を合計して計算・発表しているとの指摘もあります。就職（内定）率をみる場合は、その計算方法等をよく確認することが必要です。



※28年3月卒の4月1日現在就職率は、まだ発表されていません（5月19日現在）。

（資料：文部科学省「平成27年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」）

閑話ひとつ

- ▶ 例年通り、ゴールデンウィークは駆け足で過ぎていきました。相変わらず雑用に紛れた中でしたが、県内で開催された二つの絵画展覧会の鑑賞は充実した時間でした。
 - ▶ まずは「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」。お目当ては日本初公開のフェルメール「水差しを持つ女」。特に“フェルメール・ブルー”と呼ばれる青と対面するのを楽しみにしていましたが、想像よりも抑えられた青の色調は全体に格調や気品を与えているように感じられました。
 - ▶ もう一つは大山忠作美術館の「二本松さくら展」でこちらのお目当ては門外不出とされる東山魁夷の「花明り」。繊細優美で幻想的な世界に魅了されました。今回は30点余りの作品のうち文化勲章受章者のものが半数を超え、横山大観や上村松園といったビッグ・ネームの作品にも触れることができました。
 - ▶ 小さな美術館ですが、平成25年開催の「五星山展」や今回の特別企画展など大山画伯のご息女の大山采子さんはじめ、関係者のご労苦に頭が下がる思いです。まさに「小さくてもキラリと光る」でしょう。
 - ▶ 素晴らしいものに出会った時の感動は何物にも代えがたいものです。県内においてこのような機会がもっともっと増えることを心から期待するものです。
- (Y.M)